

活動報告

- 第9弾猪名川のい〜な！
作品展・表彰式を開催しました／入賞作品の紹介
- 伊丹市昆虫館友の会プチ展示に出展しました

数珠つなぎインタビュー 「大阪府立園芸高等学校ビオトップ部」



- 出前講座を行いました
 - ・小学校の水質出前講座
 - ・川西市環境学習会
 - ・自然と文化の森構想プラットフォーム講演
 - ・園芸高校とのキクイモ駆除
 - ・播磨東地域特別支援連携協議会防災講座



小学校の水質出前講座
11月9日(月) 猪名川大橋下にて開催
池田市立神田小学校の5年生を対象に、佐藤レンジャーと大東協力が猪名川の水質に関する講座と調査体験を行いました。川の様子や水の色などの観察、バックネットを用いた水質調査のほか、川の水にジュースをわずかに混ぜてバックネットを行い、少しの汚れでも魚が生きられない水質になってしまうことを学びました。

出前講座を行いました

「猪名川のい〜な」写真・絵画募集には、今年も猪名川の魅力を表現した作品をたくさん応募いただきました。応募作品数は写真44点、絵画58点と過去最高でした。作品展は流域の市役所や商業施設など6会場で開催しました。また、入賞作品12作品についてイオンモール伊丹で表彰式を行いました。
※入賞作品は裏面で紹介しています。

第9弾猪名川のい〜な！作品展・表彰式を開催しました

11月10日(火)〜12月25日(金)に展示、11月25日(水)に表彰式開催



箕面市メイプルホールでの展示状況
箕面市での展示は今年が初めて



イオンモール伊丹での表彰式

川西市環境学習会

12月6日(日) 川西市東久代運動公園にて開催

川西市主催の環境学習会で佐藤レンジャー、水谷協力員、今西協力員が講師をつとめ、河川敷の運動公園を利用する子供たちと一緒に外来植物やクズの駆除を行いました。流域ネットワーク猪名川の方々にも協力いただき、約30分間でたくさん駆除することができました。



自然と文化の森構想プラットフォーム講演

12月15日(火) 園田庁舎(旧園田支所)にて開催

尼崎市園田地域振興センターからの依頼を受け、志築レンジャーが防災の講演を行いました。猪名川下流域の治水や防災に関する様々な内容について、記録映像やシミュレーション動画を活用しながらお話ししました。



伊丹市昆虫館友の会プチ展示に出展しました

2月3日(水)〜2月23日(火) 伊丹市昆虫館にて展示

伊丹市昆虫館の展示で、佐藤レンジャーがカヤネズミの啓発を行いました。外来植物の増加により河川敷のオギ原が衰退しつつあり、カヤネズミの単作りに適した場所が減っていることを紹介し、オギ原の保全を呼びかけました。



園芸高校とのキクイモ駆除

1月15日(金) 池田市猪名川河川敷にて実施

大阪府立園芸高等学校の園芸デザイン部の皆さんと河川敷のキクイモ駆除を行いました。佐藤レンジャーと水谷協力員の指導で地面を掘り、高校生の若い力で肥大したイモを袋いっぱい集めてもらいました。掘り取ったイモは研究に利用するそうです。研究材料の確保と外来植物駆除を一度にしてみたい、一石二鳥でした。



播磨東地域特別支援連携協議会防災講座

1月25日(火) 加古川総合庁舎にて開催

兵庫県播磨東教育事務所から依頼を受け、原口レンジャーが猪名川流域外で出前講座を行いました。猪名川における防災の取り組みについて説明するとともに、水害時の情報入手方法、安全な避難のために考えるべき事項などについて説明しました。



大阪府立園芸高等学校「ビオトープ部」

猪名川流域で活躍する団体を数珠つなぎ形式で紹介しています。
 今回は水谷協力員と佐藤レンジャーが、園芸高校のビオトープ部で
 ヒメボタルの研究に取り組み高校生にお話を伺いました。(12月23日訪問)

■活動内容を教えてください。

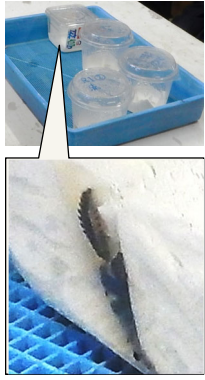
ビオトープ部では、人と自然が共存する生活空間づくりを目指して様々な調査・研究を行っています。現在は、ヒメボタル班、昆虫調査班、ウシガエル班、バタフライガーデン班が活動しています。

私たちヒメボタル班は、ヒメボタルの人工飼育の方法と生活史を研究しています。ヒメボタルは大阪府のレッドデータブックで準絶滅危惧種に指定されていますが、生活史には不明な点が多く、飼育方法も確立されていません。

■ヒメボタルは飼育が難しいと聞きますが、どのように育てているのですか？

猪名川で採集した成虫を産卵させ、孵化した幼虫をプラスチック容器に入れて、キッチンペーパーで湿度を調整しています。餌はキセル貝などの陸生貝を実習庭園で集めて与えます。小さな幼虫は大きい貝にも群がってよく食べますが、成長して終齢に近づくと食べる量が減っていくようです。餌やりの頻度が1〜2週間に1回でも問題なく、飢餓に強いことには驚きました。

とはいえ人工飼育は難しく、今年も3頭の親から101頭の幼虫が孵化しましたが、現在は4分の1に減っています。生存率を上げるのが課題です。



ヒメボタルの人工飼育
 (土中で生活する習性からキッチンペーパーの間に集団で入り込んでいる)



実習庭園内の試験区

■ヒメボタルが自然界で減っている理由は何だと思えますか？ 増やすにはどうしたら良いでしょうか。

ヒメボタルの減少の要因は人間による都市開発や環境改変です。メスは翅が退化して飛べないため、生息地の環境が悪化する

と逃げるのができません。ヒメボタルを増やすためには、生息地である猪名川と似た環境を整えることが重要と考えます。現在、実習庭園内に試験区を設け、猪名川に近い環境づくりをしています。日光を遮り、適切な湿度となるように落ち葉・朽木などを配置すると、餌となる陸生貝が増えてきました。

同時に生物相が豊かになり、ハサミムシ、アリ、クモなどヒメボタルの天敵となる生物も増えてきました。人為的に駆除することはせず、試験区の改良を重ねています。

■活動の最終目標は何ですか？

園芸高校にヒメボタルの保護区をつくることです。そのためにも、今取り組んでいる生活史と飼育方法の研究を進めることが重要と考えています。自分たちの研究が、ヒメボタルが増えて準絶滅危惧種指定が外れることに繋がれば良いと思います。

■皆さんが考える「ビオトープ」とは？

公園に池をつくれれば「ビオトープ」と呼ぶような風潮がありますが、それは違います。人間は手伝い程度で、そこにいる生物により自然に生態系が回っていくような形が「ビオトープ」と考えています。そして、人間と動物・植物が持ちつ持たれつ、共存していける形が理想だと思います。



インタビューの様子
 (奥:左から遠近部長、小島さん、引田さん
 手前:左から水谷協力員、佐藤レンジャー)

水谷協力員の感想

私と年齢の近い高校生はどのような視点で自然保護に携わっているのか、興味津々で部室を訪れました。ヒメボタルの飼育から校内の保護区まで様々な取り組みを紹介いただきました。「あなたが考えるビオトープとは?」の問いの答えには脱帽です。ぜひ自分たちの取り組みを追求し、より多くの人にその大切さを伝えてください。

第9弾 猪名川のい〜な! 入賞作品の紹介

猪名川河川事務所長賞 2作品



『緊急避難』 塚原 由雄 様

『川の流れを感じて』 林 由美子 様

猪名川河川レンジャー賞 10作品



『気持ち〜ね!』 嶋石 典央 様

『新緑に向かって泳ぐ鯉』 大田 嘉治 様

『猪名川花火大会2020』 渡辺 凜人 様

『河川敷の屋下がり』 森脇 正彦 様

『パパ』 広田 良治 様

『黄昏時』 多川 晴夫 様

『じっと、待つ』 青野 直樹 様

『来年は〜』 中西乃絵 様

『夢の中でも おいかけて』 一井 柚希 様

『いっぱい いたよ!』 斎藤 のぞみ 様

※全応募作品を掲載した図録は河川レンジャーのウェブサイトに掲載しています。
<http://www.iranger.jp/report/vol91.html>

猪名川河川レンジャー

Webサイト <http://www.iranger.jp/>
 メールアドレス info@iranger.jp

<https://www.facebook.com/InagawaRanger>



猪名川河川レンジャーに関するお問い合わせは、Web サイトまたはメールアドレスをご利用いただくか、猪名川河川事務所 工務課までご連絡下さい。

猪名川河川事務所 工務課
 池田市上池田2丁目2番39号
 TEL:072-751-1111(代表)

新たな河川レンジャーも募集中です!